

「教員用シラバス」の反省・検証

将来構想検討委員会学力向上部・教務部

1 教科別

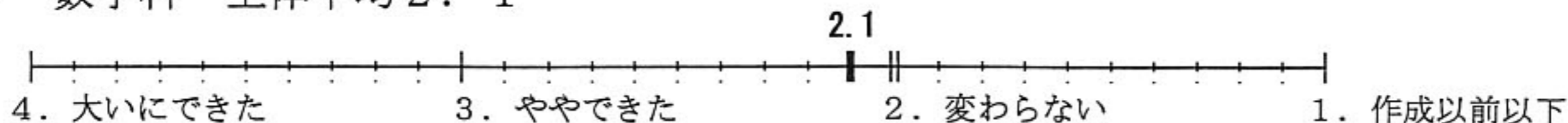
- 英語科 全体平均 3.0



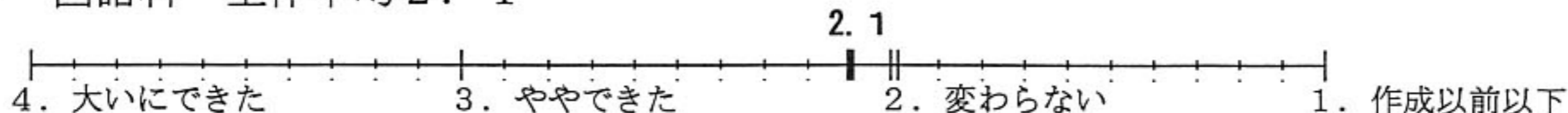
改善点：・もっと有効活用すれば良かった。

- ・実際には別様式のシラバスを使用している。
- ・有用だと思いますが、余裕がないので低い点数を付けました。

- 数学科 全体平均 2.1



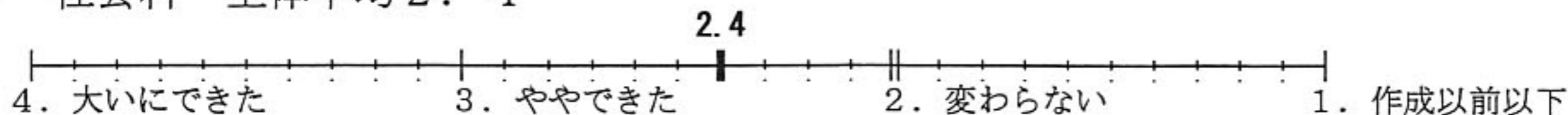
- 国語科 全体平均 2.1



改善点：・普通科の高校においてシラバスも普通（目標・到達点）と思われるが、創る意味合いが不明。必要性が懐疑的である

- ・横文字のなじまない教科もある（一律というのはどうであるか）

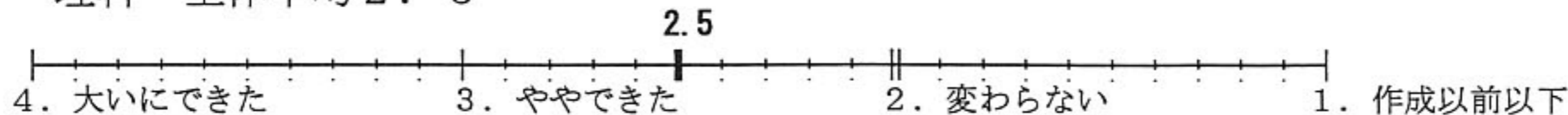
- 社会科 全体平均 2.4



改善点：・転入者が活用法を知ることができるよう教科内で年度当初に確認を。

- ・学習項目の細分化で総授業時数の何時間目でその単元が来るのかを目安として示されているといいかと思えます。

- 理科 全体平均 2.5

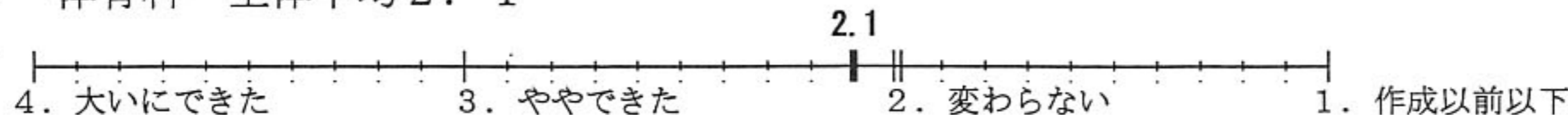


改善点：・見やすく書式を統一すべき

- ・評価は研修が必要
- ・個人的な活用レベルになって教科内、該当学年、科目内での状況確認・検討が不足した。活用法、研修の検討が必要である。

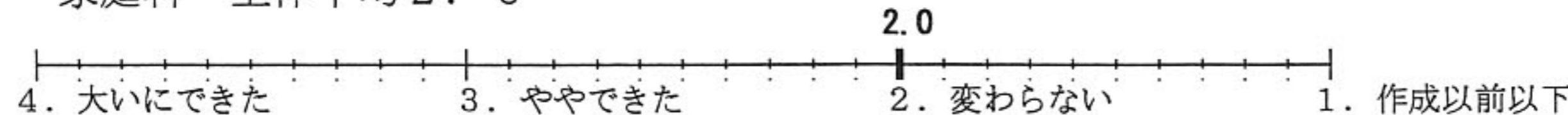
※ 新課程生物Ⅱについては施工中なので速度の改善は今後になる。

- 体育科 全体平均 2.1



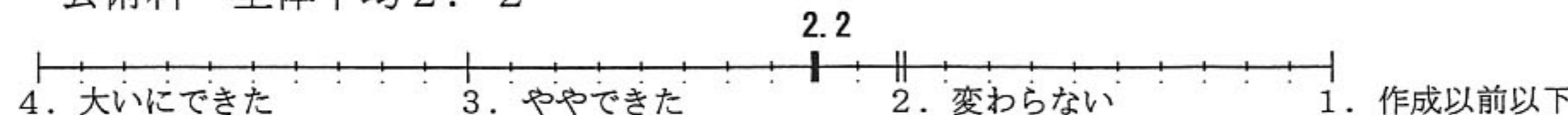
改善点：・体育科はカリキュラムは年度当初に確認しており、評価等についてはその都度、打ち合わせをしています（教材により）。新しいシラバスは正直言って活用しづらいものになっています。

- 家庭科 全体平均 2.0



改善点：特になし

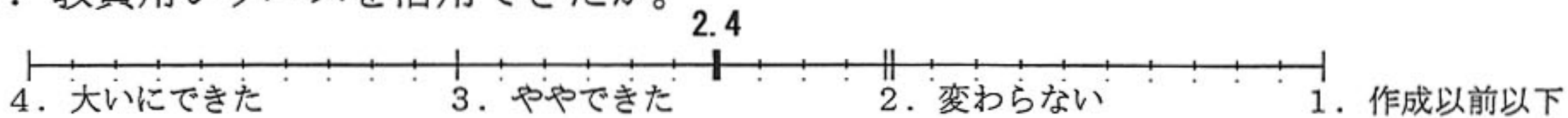
- 芸術科 全体平均 2.2



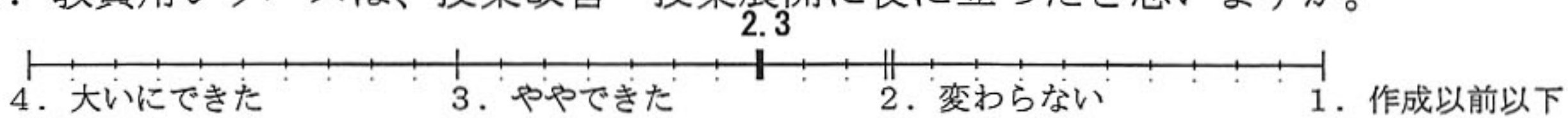
- ・各教科により、活用度は異なりました。年間計画よりも多少活用できたというのが教師用シラバスの導入初年度の現状でした。
- ・教科の特質もあり、より詳しい進度表や評価基準をまとめたものを活用している教科もありました。教材が多岐に渡る教科（英語や理科等）では進度を合わせるほかに、特に新しい学年に入った先生方には有用であったようです（既習事項や授業の重点ポイント確認等）。
- ・また、本校の流れを熟知している先生方においてはシラバスを見なくても授業展開ができるので冊子を開く機会が無かったようです。

○ アンケートの全体の平均

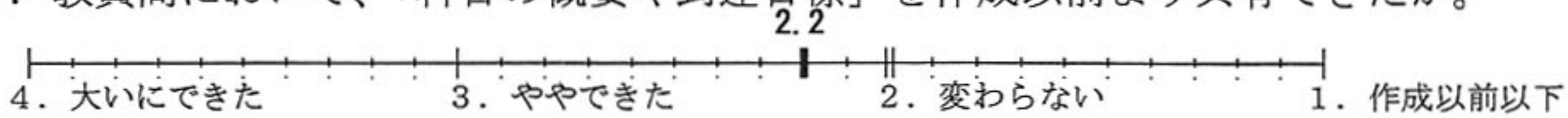
1. 教員用シラバスを活用できたか。



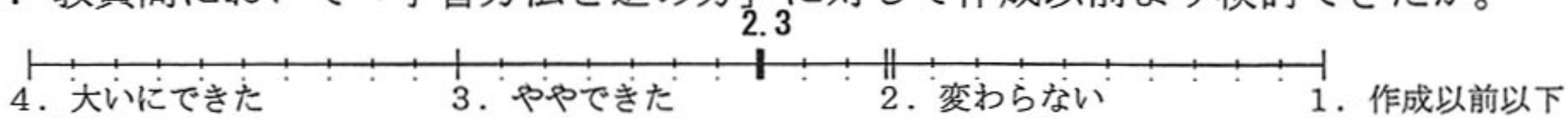
2. 教員用シラバスは、授業改善・授業展開に役に立ったと思いますか。



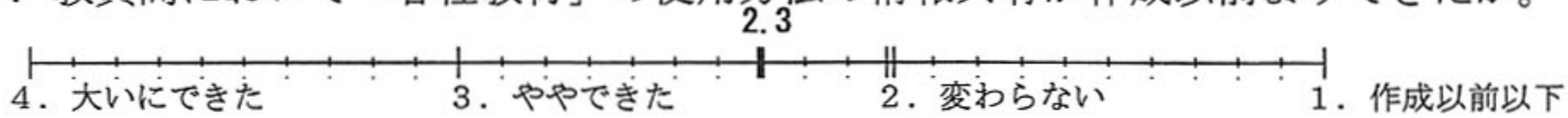
3. 教員間において、「科目の概要や到達目標」を作成以前より共有できたか。



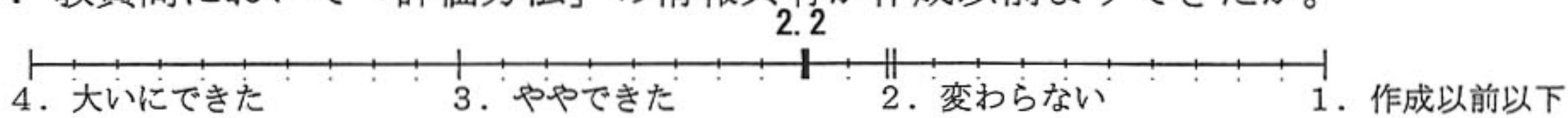
4. 教員間において「学習方法と進め方」に対して作成以前より検討できたか。



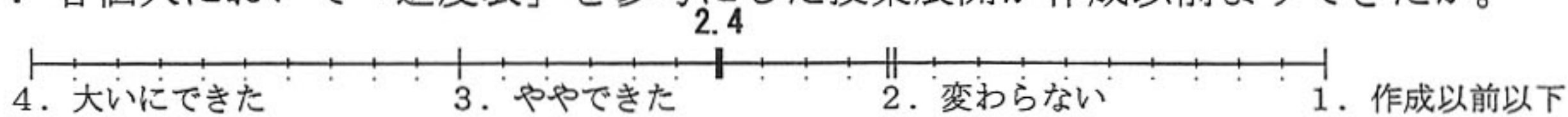
5. 教員間において「各種教材」の使用方の情報共有が作成以前よりできたか。



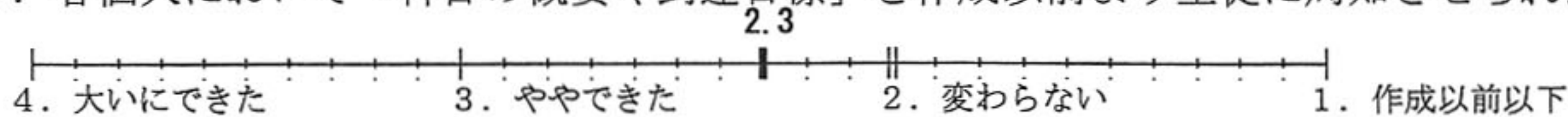
6. 教員間において「評価方法」の情報共有が作成以前よりできたか。



7. 各個人において「進度表」を参考にした授業展開が作成以前よりできたか。



8. 各個人において「科目の概要や到達目標」を作成以前より生徒に周知させられたか。



- ・いずれの項目も「以前より少し活用できた程度」であった。本年は教員用シラバス初年度であったが今後さらにより形で「北陵の遺産」を残し、より高い到達目標実現のため、指導計画、方法を議論する一つの土台となることが望ましい。
- ・各教科の特性にあった、その教科独自の形式で活用しやすい形のものを作っていくことが大切であるとする。
- ・より良い、実用的なシラバスを作成するには、今年度に研修会を開いた評価方法に関してや、各学年や学期における到達目標などを話し合う機会が大切だと思われま。